



# 学校だより

7月号

令和2年6月30日

いつもありがとうございます。

校長 青木 和裕

「いつもありがとうございます。」

これは、帰りの会を終えて教室から出る1年生が、廊下で待っていた「二つ橋サポーター」の方々にかけた言葉です。1年生でもこれだけ感謝の気持ちを丁寧な言葉で相手に伝えられるという場面を目の当たりにして、とてもうれしい気持ちになりました。



以前、学校だよりでも紹介させていただきましたが、横浜市教育委員会の講座を受講して「学校・地域コーディネーター」に任命された三浦弘子様を中心に、「地域学校協働本部」が昨年度末に立ち上がりました。地域の皆様・保護者の皆様に呼びかけ、多くの方に二つ橋小学校の応援団「二つ橋サポーター」として登録していただきました。その最初のボランティア活動の依頼が、この感染症予防対策の一つ、校内の消毒作業だったわけです。通称「ふたサポ」の皆様には、子どもの下校時に合わせてご来校いただき、毎日消毒する教室を変えながら、教職員とともに消毒作業にあたっただけです。本当にありがとうございます。7月1日(水)より、通常授業となりますが、もちろん消毒作業は継続して行います。体育の学習等特別な場合を除きマスクを着用すること、石けんでのこまめな手洗い、ソーシャルディスタンスを意識して行動することなど、引き続き感染症防止対策を講じながら学校教育活動を進めてまいります。

一か月前を振り返ってみますと、緊急受け入れ、校庭開放、課題の受け渡しと児童の様子の確認、学校再開に向けての準備等を行っていました。6月1日より「分散登校」という形でしたが、ランドセルを背負った子どもたちが学校に戻ってきました。そして、6月15日より、午前授業ではありますが、学級の子どもたち全員がそろいました。久し振りに顔を合わせるクラスメート、ちょっぴり恥ずかしそうにしている子、うれしさに頬が緩んでいる子、そばに寄って話しかける子。学級担任も、クラスのみんながそろって学習ができる喜びを実感していました。あらためて、子どもが教室で学習することの意味について考えさせられました。友達の多様な考えを聞いて、自らの学びを広げたり深めたりできるのも、「学級」という集団があってこそです。教師が子どものそばに膝を折ってしゃがみ、ノートに書かれている内容や子どもの表情を確かめながら、寄り添って声かけすることは、WEB会議システムではできないことです。学校、学級の存在意義を再確認するとともに、人を育てる尊い仕事に携われる幸せをかみしめています。

新型コロナウイルスの第2波は、予断を許しません。学校においては、引き続き感染症予防対策に努めてまいります。ご家庭におかれましても、お子様の毎日の検温、健康観察等、よろしくお願いたします。